

<p>かわら版 (新春号 NO 13 号)</p> <p>2017/07/01 発行</p> <p>年 2 回(1・7 月)</p>	<p>下関市立大学落語研究会OB会発行</p> <p>大学同窓会のご厚意でバック NO 全てを HP で閲覧できます。地域の各同窓会活動報告と ともに是非ご覧ください。</p> <p>編集局局長 西川 隆喜</p>
--	---

山里に螢とびかひ風涼し

苗 植え渡る夏のおとずれ (NO 7,227)

(直訳)日本人にとって初夏の風物詩でもある田植えと螢。現代では機械化のため、手植えが行われているところは山間地ぐらいでしか見ることができなくなってしまったが、小学校唱歌「夏が来ぬ」を思い出し「怠り諫むる夏は来ぬ」を肝に銘じておきたい。



英国領事館跡(下関市唐戸)



高杉晋作・吉田松陰・久坂玄瑞の像(萩市松陰記念館)

【2017年 盛夏 暑中お見舞い申し上げます】

下関市立大学落語研究会 OB 会員・ご家族の皆様と今年も元気に盛夏を迎えることができ嬉しく存じます。そして、病院通いの OB・OG の皆さまにおかれましては、より御身大切にお過ごしください。

さて、世界中見渡しても何かパツとしない状況が続いているようです。世界の警察から、自国ファーストへ舵を切った米国。ユーロ圏離脱した英国、難民受け入れが問題となっているドイツ、フランス・スペイン・イタリア・・・、いずれの国も他国のことをかまっている場合ではなさそうな・・・。一方、東洋に目を転ずれば相変わらずの中国、無理筋の大統領を歴代頂く南朝鮮、やくざまがいの北朝鮮、北方四島をネタに日本の経済協力を巧みに引き出そうとするプーチン率いるロシア、「四面海もて囲まれし我が敷島の秋津洲(あきつしま)」も懸念材料を数多く抱えている。

ところで皆さん、今月 23 日から内閣府が「北朝鮮情勢の緊迫化を踏まえ、弾道ミサイルを発射された際の避難の方法」を TV で放映されているのをご存じですか? おかしな話でいやしくも「国」は一義的に「国民の生命と財産」を守らねばならない訳ですが、「ミサイルが飛んで来たら地下に隠れてください・・・」などと伝えるのは「主権国家」とは到底言えないありさまだ。

一方、政治家のスキヤンダルをおもしろ、おかしく、興味本位に相変わらず伝えている新聞や放送機関は、「国民一般に対する影響力の大きさ」を付度し、日本のあるべき方向をも含め各社の理念に基づいた立場々で伝えてほしいものだ。先を見据えた将来を語り、地道で着実な施策を掲げる人達を「政治家(せいじか)」と言ひ、当面の選挙に当選することのみを目的にする人たちを「政治家(せいじや)」と言うらしい。不用意な発言や立ち居振る舞いはもちろんだが、昨今の日本には「政治家(せいじや)」の多いことは実に悲しいことであるとともに、脇の甘さが気にかかる今日この頃である。

また、昨今は将棋界における中学生棋士、藤井颯太(ふじい そうた)四段の連勝記録に世の中が湧いています。人口知能ロボットとプロの棋士が闘う第二回「電王戦」が 5 月に行われ、PONANZA(ポナンザ)が佐藤天彦第二期「叡王」に二連勝し下した。

コンピューターの技術革新は目覚ましく、もはや単なる生産ラインにおける産業用ロボットの領域を超え、人工知能(artificial intelligence、AI)を持ったロボットが休みなく自己研鑽(ディープラーニング)を行い、驚異的進化により、政治家・裁判官・教員・・・など高度な知的生産に関わる分野においても貢献することが期待されている。日本の生産人口の減少を補い、より豊かな社会の創造に寄与するのはそう遠くなさそう。

但し、そうなった時でもそれらの知的ロボットを正しく使いこなす人間の公特性の高さがカギを握ることとなるであろう。

(編集局)

## 【札幌雪まつり 2017・還暦二人旅番外編】

今年もひよんなことから、2年続けて札幌雪まつりに行くことになった。また一本の電話からだった、『もしもし西川です』、『ピーチくんどういたしたん』、『先輩ちょっとおもしろいもん見つけましたで』、『なんや』、『札幌で日曜日に泊ったら半額で 3300 円で朝飯付きいうのを見つけたで』、『安いな』、『安いでっしゃろ、とり

あえずとりませんか、いらんかったら後で取り消せばええやないですか』、『そうやな』、これがなんと昨年、真夏の7月のことでした。半分冗談のつもりでホテルをとったのですが、その後、調べて見ると12日の日曜日が雪まつりの最終日だという事が分かり、去年雪像を壊すところが見たいという思いが少しあったので丁度いいかなと思ひ始め、飛行機のセールのために少しずつ形になっていき、とうとう出発の日となつてしまいました。ええかげんなおっさん二人旅の始まり始まりって紙芝居か。今年は穏やかな年のはじめで、何年ぶりかの暖かいお正月でした。しかし、1月の終りから大寒波がやってきて東京でも大雪が降りました。札幌も大雪でこれはひょっとしたら中止になるのじゃないかと、心配していたが、すぐに寒波も収まり順調に雪祭りも開催された。2月12日、関西空港発7時20分のため前泊となり泉佐野で1泊した。泉佐野ではいつものように夕食は駅前でたこ焼きを買い、朝食用に近くのスーパーでパンとオレンジを買い早々とチェックインをする。夜も、あくる朝一番の南海電車で空港へ行くため9時までには寝ることになる。

翌朝の関西空港の第2ターミナルは人でごった返していた。20分間に6、7本の飛行機が沖縄や札幌へと飛び立つのである。朗志と待ち合わせていたがなかなか姿を見せない、ぼちぼち搭乗開始になるのにと、電話をしたら、彼はまだ保安検査場を歩いていなかった、ここも凄い行列で中に入れないう。残して飛ぶこともなかりと、先に搭乗する。1週間前とは打って変わって、今日は晴れで機上から見る雲も真っ白で、目に眩しい、揺れることも無く札幌へ到着、滑走路や周りに殆ど雪は無く、今年の吹雪の中を着陸した一面真っ白の風景はどこへ行ったのだろうと思うほどである。



興福寺 (陸上自衛隊製作)

空港でワンコインの天井を食べ札幌駅へ向かう、彼は空港の中でも安くて旨いものが食べるところを知っている、結構な回数札幌へきているので、道も良く知っている、札幌駅からススキノまでも地下道を歩いて20分ほどでホテルへ着いた。まだチェックイン出来ない、ロッカーに荷物を放り込み、会場へと向かう。先にススキノの氷の像を見に行くが天気が良くて暖かいので、氷が溶け始めていた、このあと行った雪まつりの会場でも小さい像はいくつか崩れていた。

それでも自衛隊の造った興福寺の大きな像やスターウォーズの大きな像は、とても素晴らしく細かいところまで良く出来ていました。その後ホテルへ戻りゆっくりして、夕食を食べに夜のススキノの街へ・・・この還暦のオヤジ達は酒も飲まず、夜遊びもせー

へんので、北海道の海鮮に舌鼓をうち、何故か津軽三味線のライブを聞いて、程よい頃にホテルへ帰りました。

あくる朝、今回の旅行の目玉、雪像を壊す所を見たいという目的を果たすため一人で8時ころに会場に行ってみると、なんともう作業が始まっていました。幸い自衛隊の興福寺の解体が始まるころだったので、なんとか動画に収めることが出来ました。朗志に合わせて9時半ころに来ていれば全てが雪の塊になるところでした。何十人もの隊員の方が雪像の前に並び、まず黙祷を捧げ、隊長の指揮の下粛々と作業が行われていきます、大きな重機を操り、像を壊していきます、ここにいなければ感じられない、一種独特な雰囲気の中、大きな像が雪の塊へと変わっていきます。その後、ほかの像を見に行ったが朝早くから作業が行われたらしく、殆どの作業がおわっていました。

そのあとは、北海道旧本庁舎から北海道大学へ、広大な敷地を見て回り、朗志くんお薦めの食堂にて昼食をとる。そして忘れてはならない嫁からの今回のミッションの一つである、サッポロ CLASSIC を買って帰るために、わざわざサッポロビール園へと歩き始める。今回は楽な日程なので、天気の良いこともあり、全てのんびりと歩く、観光旅行では味合うことの出来ない、ここに住んでいるかのような情景を目にする事が出来る。こういう旅は本当にいいものだ。

午後3時には部屋に戻ってゆっくりと荷物の整理をして夕方またぶらりと街へ出る、適当に夕食を食べホテルへ。翌日は早朝、7時30分の特急で白老へ行くので早々に朝食をすませ札幌駅へ、無事乗車1時間で白老へ到着、今日もいい天気だ、ロッカーに荷物を預け、白老ポロトコタン（アイヌ民族博物館）へと歩き始める、ポロトとは大きな湖という意味らしいがその大きな湖は全てカチンカチンに凍っていた、遠くにワカサギ釣りのテントが幾張りも見える。開館してすぐだったので、お客さんは2人だけだった。

古式舞踊公演がすぐにある予定だったが、今はまだ踊り手が2人しか来ていないから、次の公演だったらみんなが来るので、先に博物館を見ておいてくれと言われた。こっちも時間はたっぷりあるのだ、と言うのも帰りの列車は14時27分までないのだ、6時間ここで過ごさないといけないのだ、とバカボンのパパみたいなことを言いながら展示物を見て、時間になったのでサウンチセ（手前の家）に行くと、なんと観光客で溢れかえっており、すでに、80人は超えていたしかも、すべてが韓国、タイなど海外からの団体客だ



白老ポロトコタン(アイヌ民俗資料館にて)  
上段左より、西川・沖井各氏

った。聞いてみるとこの時期は毎日こんな状況らしく、解説のおじさんも何カ国かの言葉で面白おかしく解説をして皆さんを笑わせていました。

また、ここには大きなヒグマが飼われていたり、CMで有名なお父さんの犬、北海道犬が飼われています。娘の『ゆめ』も飼われており寒そうに身を縮めて寝ていました。他に4頭の北海道犬がおり、その中の1頭がすごく人に慣れており、首のあたりを摺り寄せてきて、とても可愛く、ヒグマにも向かっていく北海道犬がこんなにも可愛いのかと、しばらくその場を離れられませんでした。

ゆっくり見学しても、まだ時間は3時間くらいあります、さてどうしたものかと思っただのですが、先ほど通りがけに見かけたポロト温泉にでも入ってみようと言うことになり、受付で100円のタオルを買い、ふらりと温泉へ。とにかくたくさん着込んでいるので裸になるのも一苦勞である、やっと湯船に入るとこれが熱い、しかし少し我慢していると慣れてくる、源泉かけ流しの湯は少しヌルツとしていて山口県の一ノ俣温泉の湯をおもいだす。朗志は相変わらず人懐っこく地元のおじさんに声を掛ける、苫小牧から週に1度は来るといふ、ここの湯は体がすごく温まりいつまでも暖かいという、確かに、外へ出てからも暫くぼかぼかと暖かかった。しかし、この温泉も3月で閉鎖となるらしい、残念というか最後に入れて良かったです。そのあとは食事をして、列車で千歳空港へ朗志君はそのまま大阪へ私は翌日、福岡へとお互いに無事我が家へと帰り着きました。

今回の旅は天気にも恵まれ、冬の札幌には珍しく暖かい日々であった。ゆったりとした時間の中で白老ポロトコタンの人々と触れ合い、のんびりと温泉に浸かり土地の人と話す、終活を考え始める歳になって、また新たな楽しみやひと時を過ごすことが出来た。こんなにも楽しく、ワクワクする旅に誘い出してくれた朗志君に感謝!感謝!

(あばら家 笑司:沖井 孝志 S49 卒)

## 【 近 況 報 告 】

御無沙汰しております。花見亭呂九笑です。今年で遂に62歳を迎えますが、まだ現役で仕事しております。60歳で満期退職し今は、嘱託社員(給料は半分近く下がりましたが・・・)として現場の所長として日々汗を流す毎日です。嫁さんに「65歳まで働け!」としつこく言われ仕方なく働いているのが実情ですが・・・。

最近の出来事は、この春、以前勤めていた店舗(今は不振の為閉鎖)の「OB会」があり、6時半より宴会。翌日が休みだったので、調子に乗って二次会のカラオケに付いて行き、歳を忘れて午前0時まで大騒ぎ。終電に駆け込んだはいいが、JR奈良まで15分

位なのに席が空いていたので座ってしまった。駅員さんの「終点ですよ」の声に気づくと JR 奈良から 2 駅向こうの京都府の駅。駅はすでに消灯し非常灯のみ、おかげで乗り越し料金は支払わずに済んだが。慌てて嫁さんに電話するも「ビール 2 本飲んだら迎えに行けない」とつれない返事をされ、仕方なくタクシーを待つもこんな田舎駅、乗場はあるものの一向にタクシーは来ず、タクシー乗場のベンチで時を過ごすことになってしまった。酔いもすっかり醒めてしまい、ただ寒いだけ。偶然 3 時頃タクシーが通りがかり、4 時前に自宅へ帰還。宴会代、タクシー代で万券が飛び多額の出費となり、朝から嫁さんには「死ね!」とぼろくそに怒られ、踏んだり蹴ったりの一日でした。挙句(あげく、)、嫁さんから「当分の間は外では禁酒!」と言われる始末。今では、仕事帰り駅で缶酎ハイは飲んで帰るのが唯一の楽しみ(ビールは尿酸値が高いので飲まない)となってしまう。若いころはお酒にまつわる年長者の失敗談を笑っていたが、自分自身が歳を取ってからは、酔って階段で転んで右肩剥離骨折、酒の飲み過ぎか痛風の発作の 50 代・・・とこの年になっても未だ失敗が多く情けない。皆さんも飲み過ぎには注意しましょう。

話は変わって、嫁さんに「一度下関に行こう」結婚以来言ってきましたが、未だ実現していないので、今年か来年には懐かしい下関を訪問して下関ポート・ナイターレースでまくり一発を当てて儲け帰りたいと思う今日この頃です。とにかく元気でやっております。  
(花見亭 呂九笑:幸本 秀哉 S53 卒)

## 【定年を迎えても】

編集局長(西川さん)よりお電話をいただき「総理のご意向」にて、かわら版に投稿するよう指示がでました。運悪く、たまたま購入したマンションが朗志さんのご近所で「逃げるに逃げれず」、今回で二度目の投稿をさせていただき、皆様のお目を汚させていただきます。

### 現況報告

小生、社命により防人の任を解かれ(沖縄に 3 年 3 カ月単身赴任)内地に戻りはや 4 年、昨年末に定年となり悠々自適の生活が待っているかと思いきやすずめの涙の年金を頂けるまであと 5 年。家族を養うため耐えがたきを耐え忍びがたき忍び会社の若い者には年寄り扱いされながらも、眠れぬ夜に枕を濡らしながら囑託社員としてこの浪花の地で頑張っております。

ちょうど1年前に開催されました「創部45周年記念懇親会 IN 博多」に参加できず非常に残念でしたが、来年は大阪の地での開催予定とのこと。なんとか参加させていただくべく日々精進しております。

### 大学新入生当時を振り返って

前は芸名の由来について一言申し上げましたが、やはり当時の1回生にとって衝撃的な出来事と言え、個性の塊である諸先輩方の言動でした。特に4回生の方はたまにしか部室にのぞかれませんでした、たまに来られると落研の活動のこと以外の社会勉強的な内容のことの方を主体でご教授いただいた記憶しかありません。

広島地方都市からでてきた私にとっては、当時4回生の笑仲（森長武）先輩今は無き（すいませんまだご存命でした）は絶対的存在でしたが、1回生の私に優しく？教えて頂きましたこと今思えば大学生活の忘れることが出来ない一つです。

特に今でも秋になると各地で大学祭が行われておりますが、当時大学生活はじめての大学祭（馬関祭）開催時に笑仲（森長武）先輩からご指導いただいた大学祭での落研で出店した模擬店のフレンチトーストが忘れられません。

- ・落研の古典的イメージとは違うメニュー
- ・若い女性をターゲット
- ・トースト・卵・砂糖・牛乳・バターの黄金比率等

笑仲先輩といえば泣く子もだまる豊前田・唐戸の夜の帝王(水商売で暗躍された市大でのフィクサー的存在の方)で、味が良くてはお金を頂けないと、商売の基本をもっといえば経済学の基本をも教えていただいたと記憶しております。

「少年よ大志を抱け、そして良い先輩を見習おう？」

(春好亭 小楽狂：松田 忠義 S54卒)

### 【編集後記】

今回の編集後記は、最初に本年1月に故人となられました準会員の有田(宮崎県)さんの奥様を偲び、会員の皆様とともにしばし黙とうを捧げたいと存じます！

私、西川は宮崎取材のために二度訪問いたしました。二度目の訪問に際し、宮崎駅から至近距離にあったご自宅を訪ねました。丁度、ご主人である有田さんが孫さんを幼稚園に送って行かれて不在でしたので、奥様は有田さんが帰宅されるまでの僅かな時間

でしたがお相手をしてくださいました。実に実直で素朴な方で、有田さんにはもったいないぐらいの女性でした。一期一会を大切にしている編集局長としてまず故人の僅かですが人となりをお知らせさせていただきました。

さて、毎年6月になると個人的な所用で福岡へ行く。今年は21日～22日の間、博多駅前のホテルに一泊し用事を済ませた。夜に食事を取りながらの打ち合わせであり時間的に余裕があったので、初日は西新にある修猷館(福岡)同窓会事務局を訪ね、お話を聴く機会をいただいた。隣接して西南学院大学があり「サザエさん通り」にも接し、文教地域としては優れている。また、新しく建てられた近代的な校舎の最上階にある三本のポールでなびいていた県旗・国旗・校旗と街全体の調和が誠に美しく、流石に全国に知られている伝統校であると感じた。事務長室での対応も丁寧で、甲子園で館歌(修猷館では校歌は館歌、校長は館長と称す)が歌われることを期待する旨を伝えました。



大分県福岡事務所(天神センタービル9F)にて  
左より編集長・中山氏

そして、二日目は昼過ぎの飛行便までの空いた時間で、志賀島OB・OG会(昨年)で面識を得た、大分県福岡事務所長の中山 和充さんを天神センタービル9階にあるオフィスに訪ね、あれこれ楽しいお話を伺うことができた。とりわけ、江戸時代後期に生まれた、儒学者・広瀬淡窓が日田に開いた日本最大規模の咸宜園(当時では日本最大規模の私塾)が、その

後、大阪の適塾が大阪大学の基礎となったような道をたどらなかったのか? の疑問を投げかけたところ、即答はありませんでしたが、律儀な彼は福岡空港の待合

室にいる私にメールで、「明治30年に第10代塾主が退任し、塾生の減少もあり90年の歴史を閉じたとのことです。」と答えてくれました。OB・OGの皆さん! 福岡へお出かけのおりは彼に連絡するのも一案かもしれません。

最後に来年、大阪開催が予定されているOB・OG会は4月後半をイメージしています。より多くの会員の皆様のご出席を期待いたしておりますので、賀状等でやり取りのある身近な会員の皆様への「お声がけ」をお願いして編集後記とさせていただきます。